

令和6年度（2024年度）

金沢大学法科大学院

入学試験問題

刑 法

B日程入試

（注意）

1. 問題冊子（表紙を含む）は3枚です。
2. 問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
3. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
4. 解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。
5. 解答にあたっては、どの問題から解答しても構いません。ただし、どの問題についての解答であるのかを答案中に明示してください。

令和6年度（2024年度）金沢大学法科大学院入学試験問題

試験科目	刑	法
------	---	---

以下の問題について解答しなさい。

問題1（各5点）

以下の語句あるいは概念を説明しなさい。解答の際は、定義だけを記述するのではなく、学説の議論状況や判例の状況など解答すべき内容を問題に応じて自ら選択し、具体的な事例を自ら設定したうえでそれぞれ解答用紙5行程度で解答すること。

（1）罪刑法定主義における明確性の原則

（2）適法行為の期待可能性

問題2（15点）

次の事例におけるXの罪責を論じなさい。ただし、「自動車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律」以外の特別法違反の点は論じる必要はない。

X（成人男性）は、1年以上にわたりA（2005年3月28日生まれの女性。父親Bと同居）と真剣な交際を続けており、Aが高校を卒業するタイミングで結婚することを2人で話し合い、合意していた。しかしながら、BはXとAの結婚に強く反対しており、XがAと会うことすら認めない状況であった。

そのため、XとAはこのままでは幸せになれないと考え、駆け落ちすることを決めた。Xは、2023年3月15日に開催されたAの高校の卒業式終了後、駆け落ちのための最低限の荷物を持ったAを自らの軽自動車（以下、X車という）に乗せ、Aが住んでいたBの家には戻らず、約100キロメートル離れたXの自宅へ向け車を発進させた。

なお、Xは小さいながらも会社を経営しており、同年代のサラリーマンよりも多い収入を得ていた。AもXの会社への就職が決まっている。また、Aの母親はすでに死別している。

その途上、XはBが察知する前に自宅に戻らなければならないと気が逸って

おり、国道の交差点に差し掛かった際に信号を見落とし、赤色信号を無視する形で交差点に進入し、右方道路から青信号に従って直進してきたC運転の普通自動車（以下、C車という）の左側面に自車の前部を衝突させた。C車の後部座席には妊娠8か月のDが乗っていたところ、事故によりDには9日間の入院治療を要する常位胎盤早期剥離等の傷害が生じた。Dは救急搬送された病院でEを出産したものの、事故によりEに脳挫傷が生じており、Eは同月17日に脳挫傷により死亡した。なお、X、A、Cに怪我はなく、他の人車を巻き込むこともなかった。

以上